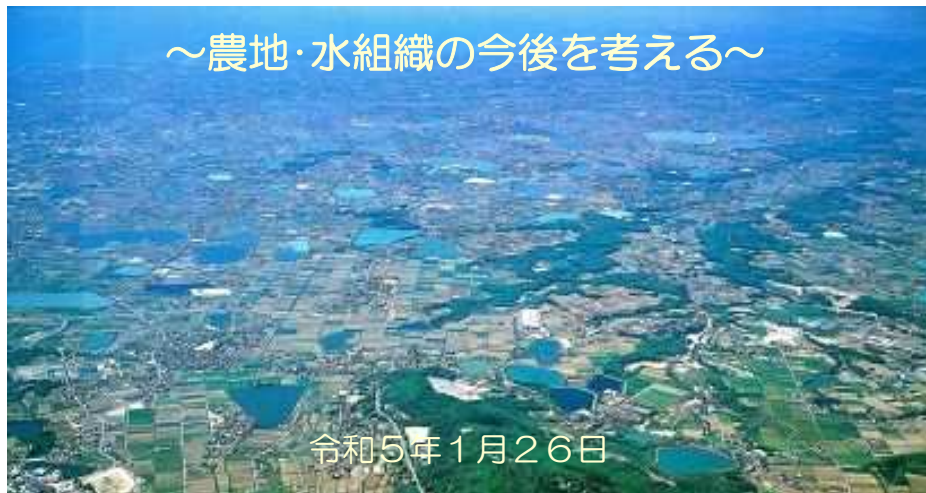


東播磨・北播磨の水土里を未来に！

～農地・水組織の今後を考える～



令和5年1月26日

元 農林水産省 農村振興局長
太 田 信 介

生国は近江＝滋賀県

平 清盛の寵愛を受けた
白拍子・祇王の生地。



水で困っているふるさとのために、野洲川
から水を引く水路の開削を清盛に頼んだ。



承安3年(1173) から5年
をかけて開かれ、今も地域
に愛され使われ続けている。

末端土水路は、魚捕りなど子供達の遊び場。

I

私と多面的機能支払制度との関わり

- 2001 土地改良法に環境配慮条項を導入
- 2001 21世紀土地改良区創造運動開始
(水土里ネットを愛称に選定)
- 2003 農地・水・環境保全の委員会設置
- 2007 全国農村振興技術連盟でリーダー研修
(2009-13 委員長として参加)
- 2014-17 国営事業関連地区で意見交換
- 2015 第7回世界水フォーラムで制度を紹介
- 2009-現在 各地で講演、意見交換を進行

II

今日の講演の進め方

- 各地域で多面活動に取り組んでいただいている皆さん、本当にご苦労様です。
- 活動を進める中で、今後のことなど様々な課題に直面されているかと思います。
- 今日は、私からの問いを、皆さんご自身で考えていただきながら話を進めます。
- 地元を熟知された皆さん方だから、実行可能な答えを見つけられると思うからです。

III

今日の話題

1. 活動をより楽しく続けませんか？
2. 地域の夢を話し合いませんか？
3. 農業の未来も考えてみませんか？

1. 活動をより楽しく続けませんか？

地元の農業農村への皆さんの思いは？

地元の農業農村に
皆さんはどんな思いを
お持ちですか？



皆さんの様々な思い

[農家の皆さん]

- 今の農業は儲からず、自分の代で終わるか
- 集落営農を次世代に引き継ぐにも人がいない
- 大規模農家だけで地域は守れないが、担い手を
探そうにも貸し手農家ばかりが増える
- 国民・県民は農業農村の大切さが分っていない

[農家でない住民の皆さん]

- 耕作放棄地が増え続けるのが心配、子や孫に何
とかして地域を残したい
- 地域活動に参加するまでの気持ちになれない
- 最近の風潮から農村も捨てたものではない
などなど

農地・水リーダーの様々な声は？

- 地域の環境がよく守られるようになった
 - 様々な人たちが活動に参加してくれている
 - 地域の絆が強まり、笑顔や笑い声が増えた
 - 活動を進めるのは苦労もあるが面白い
 - 活動に関わりパソコンが使えるようになった
 - 書類の整理が煩雑で手間がかかる
 - 農家以外の人たちに参加してもらうのが難しい
 - 次のまとめ役がなかなか見つからず、しんどい
 - 活動がマンネリ化して参加者も減り気味
 - 広域化は地域の主体性が失われそうで心配
- などなど

3

皆さんは何のために活動されていますか？

- 農家として当然のこと
- 農家ではないが集落の環境を守りたい
- 子供や孫に住みよい地域を残したい
- 農家を助けて農業を続けてもらいたい
- 子供たちが喜んでくれることが嬉しい
- 皆でわいわいとやるのが面白い など



- ↓
- 活動に取り組んでおられるのは、活動を他人事だと思わず、我が事、自分事だと受け止めておられるからではないでしょうか？
 - まだ、他人事だと思っておられる人たちには、我が事と思って欲しいものです。(次の話題で)

4

次のリーダーをどう育てますか？

- 後継者の育成は、リーダーの一番の仕事ではないでしょうか。
- 後継者になって欲しい人材に目星をつけ、活躍の場を用意して経験を積んでもらう。(手取り足取りの指導は辞め、我慢して様子を見て、後で適切な助言をお願いします。)
- 県などには、育てる側と育てられる側のそれぞれに実践的な研修の機会を考えていただいてはいかがでしょう。

5

子供達に将来の活動参加を意識付けよう

- 子供達が参加する活動は、その親たちも参加したり、子供達の喜ぶ様子を見て大人たちも嬉しくなり、盛り上がります。
- でも、子供達には大人たちがその準備にどれだけ手間をかけたかは見えず、楽しかった思い出だけが残ります。
- 準備の一部を子供たちに任せたり、保全作業と楽しいことを抱き合わせにして、大人の苦労を分かち合ってもらっては？

6

大きな描き、一步一步進めましょう

- 多面制度は、5年毎に作成する計画に沿って、毎年の共同作業やイベントを行います、計画に新味が無くなっているようです。
- 毎年、作業やイベントが終わると、皆で達成感に浸ることはできますが、喜びは長くは続かないかも知れません。
- 完成に数十年かかるような集落の大きな夢を描き、毎年、完成への足取りを実感できるように進めてはいかがでしょう。

7

広域化を進めることに対する私の懸念

- 広域化は、活動の事務処理を一元的に行えるなどのメリットがあり、これを進めるのは時代の流れだと思います。
- でも、運営が事務局に集中し過ぎると、主体的に活動を進めてきた各地域の皆さんが管理される立場に変わります。
- 各地域の主体性を残しながら、広域化のメリットを活かせるような方法を工夫していただくようお願いします。

8

2. 地域の夢を話し合いませんか？

多面制度の他にない大きな特徴は？

[特徴1] 自らで計画がつかれる

多くの選択肢が用意され、金太郎あめでなく、地域の実情に合った計画を地域の皆さんで自由に描ける

[特徴2] 1つの制度に2つの目的がある

農家でない方々は農業のためでなく、自らの集落の環境を良くして子や孫に残す



農家の皆さんは、農家でない方々の協力を得て、農業を続け、将来につなぐ

9

これまでの集落の運営と多面組織

○これまで集落の運営は自治会で行われてきました。

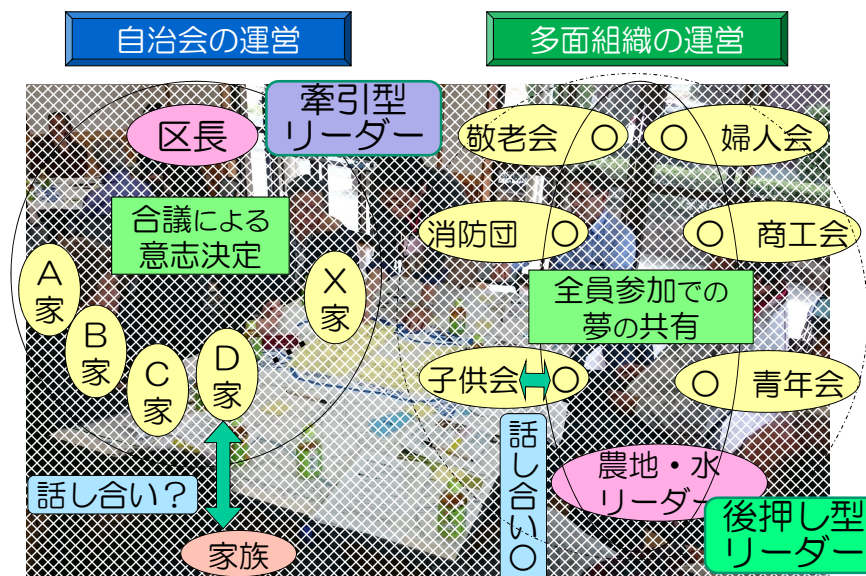
○多面制度が始まって、この組織が集落活動の一部を担えるようになりました。



○多面組織と自治会の運営方法にどのような違いがあるでしょうか？

10

自治会運営と多面組織の運営の違い



11

多面組織を今後どう活かすか？

○多面組織は、変貌し続ける農村にも適応できる地域運営の仕組みではないでしょうか？

1. 戸長中心から全員が参加する型へ
2. 前例中心から皆で考え見直せる時代へ
3. 物理的な環境の改善もさることながら、話し合いの過程自体に大きな意味が

○従来の仕組みは残しつつ、多面制度を活かして時代の変化に対応していったらどうでしょう？



地域の人材を掘り起こして活躍していただくとともに居場所を提供することができるのでは？

12

それぞれの地元を良くする方法は？

○皆さんそれぞれの地元を良くするには、どうすれば良いのでしょうか？

○問題点を見つけ出し、解決策を検討し、実行するのが常識的な方法でしょう。

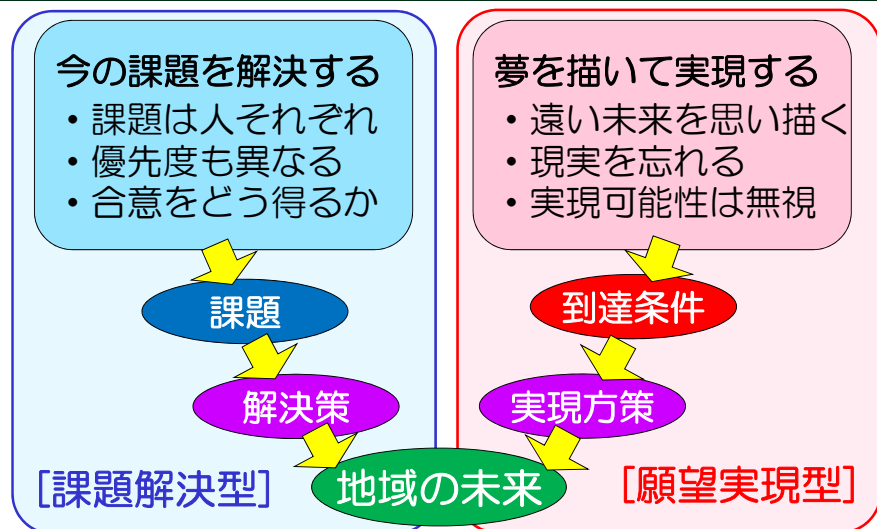
○でも、各人が課題だと思うことはバラバラで、意見をまとめるのは一苦労です。

○ある課題を解決しても、誰にとっても明るい未来につながるとは限りません。

○では、どんな道筋が考えられますか？

13

地域を良くする2つの道筋



どちらの道筋の方が楽しいでしょうか？

14

集落の未来図を皆で描こう！

○30年後のあなたの集落があって欲しい姿を、住民の一人として、

- 集落に暮らす人々の様子
- 人々が生計をたてる手段
- 集落の生活環境や自然環境

をメモし、用紙に貼り付けて下さい。



○この未来の集落に愛称を付けて下さい。

〇〇が☆☆する□□集落

15

30年後の集落の未来図を考える作業シート

作業シート (Worksheet) for thinking about the future of the settlement 30 years later.

Top section (Two overlapping rounded rectangles):

- Left: 集落に暮らす人々の様子 (Appearance of people living in the settlement)
- Right: 人々が生計をたてる手段 (Means by which people make their livelihood)

Bottom section (A large rounded rectangle):

- Content: 集落の生活環境や自然環境 (Living environment or natural environment of the settlement)

Bottom line (A horizontal line with a box):

愛称 (キャッチ・フレーズ) が する 集落

16

多くの皆さんが思い描く集落の未来図

住民の一人として、30年後の集落はどうあって欲しいですか？



働く場があり、暮らしに便利で、水や緑にあふれた良い環境が守られていて欲しい

「小学唱歌「ふるさと」や「春の小川」のイメージ（+コンビニなど便利さも）」

令和4年度 東播磨・北播磨地域 多面的機能保全向上活動発表会
【特別講演「東播磨・北播磨の水土里を未来に！」 講師：太田信介氏】

差替資料

17

小学唱歌「春の小川」は川の歌？

春の小川

春の小川は さらさら行くよ
岸のすみれや れんげの花に
すがたやさしく 色うつくしく
咲けよ咲けよと ささやきながら



春の小川は さらさら行くよ
えびやめだかや 小ぶなのむれに
今日も一日ひなたでおよぎ
遊べ遊べと ささやきながら

18

話し合いの場で皆のアイデアと意欲を引き出す

活発な意見交換ができる場づくりとは？

従来の話し合い

- 全く話さない人がいる
[話さない人の気持ち]
・聞き手のほうが気楽
・場違いなことを話してしまいそう
・提案したことをやらされるのがいや
- 特定の人だけが話す
・気を悪くさせずに発言を止めたい

どんな場づくりを？

[意見の交換冒頭に行う宣言]

- ・全員が平等に発言する場とする
- 話したくない人の発言思考回路のスイッチを入れる
- ・各人の発言制限時間は〇〇分
- しゃべりすぎる人をスマートに制御できる
- ・発言と実行は区別して考える
- 実行の際に別途体制をつくる
(主要メンバーの可能性あり)

19

目標に向けた実行性の高い計画づくり

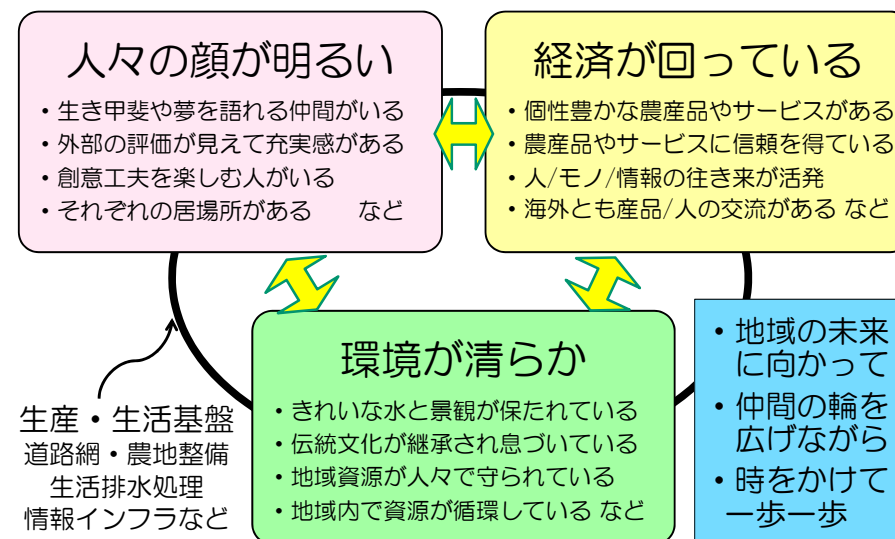
誰がいつ行つか、参加者のアイデアを貼り付ける

誰が行うか	いつ行うか					
	すぐに着手	2～3年後	5年以内	10年以内	20年以内	それ以後で
自ら						
家族や隣人と						
任意の仲間で						
農協や商工会で						
町内会で						
市で						
県で						
国で						
民間で						
...						
...						

キャッチ・コピーと
この作業シートに書かれたことが
皆さんで練り上げた
集落の振興計画となります

20

私が思い描く農村地域の未来図



21

3. 農業の未来も考えてみませんか？

イメージした農村に無くてならないもの

集落の未来図が現実のものとなるために無くてはならないものは何でしょうか？

田んぼ、水路、ため池、生き物
鎮守の森、景観、子供、祭り
人々の交流 など

これらは **農業** が続けられていないと存在しえせん



22

未来図の中で続いている農業とは？

どんな農業なら集落の未来図の中で続いていると思いますか？

- 儲かる農業
- 3Kでない楽な農業
- 環境にやさしい農業
- 相手の笑顔が見える農業 など

〔 続く農業の絶対条件は、
「儲かる農業」であること 〕

儲ける秘訣は？ ⇒ 「安く作って高く売る」



23

農業で儲けている人の秘密を探ろう

○隣接集落との経営一体化で大規模土地利用型農業と野菜生産を展開

〔 米麦・大豆作は、国の財政支援を前提に
花卉・野菜はネット経由の販売をメインに 〕

○大手スーパーと販売契約を結び、大型ハウスによるスマート農業を展開

〔 IoT、AI化により営農作業環境を革新
若者の採用で、地域の雇用促進にも貢献 〕

～ 多様な個性あるビジネス・モデルを実践 ～

農業生産者 から 農業経営者 へ！

24

改めて皆さんにお尋ねします

皆さんの集落が30年後に
未来図のようになってい
て欲しい。



そのため誰かに農業を続けていて欲しい。
(今から続く農業を目指して欲しい)



あなたはその農業にどう
関わりますか？
(自分の立場で考えましょう)
「関わらない」でも OK

25

具体的な取り組みのイメージ

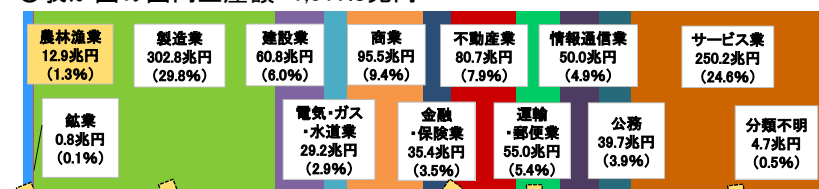
- 集落住民として、農業が存在する意味を
考え、実行可能な支援体制を整える。
- 県や市町からの情報提供や助言を得て、
具体的な話し合いを進める。
- 参加者の立場や経験を農業の振興につな
げる取り組みを一步一步進める。
例) 多面リーダー：人・農地プラン策定に力 参加
退職した元商社マン：人脈を活かし輸出支援
地元スーパー店長：地産地消に協力
主婦：商品のPRに一役

26

[参考] 最近の農業・農村の動き

農業・食料関連産業は国内で一定の地位

○我が国の国内生産額 1,017.8兆円



出典：H27 総務省「産業連関表」

○農業・食料関連産業の国内生産額 114.0兆円



出典：H27 農林水産省「農業・食料関連産業の経済計算」

第1次産業の生産額は13兆円に過ぎないが、農業・食料関連産業
の生産額は114兆円で全産業の1割強を占める重要な産業分野

参1

全国と兵庫県の販売農家の農業収入の現状

○販売農家の戸当たり農業収入*は？ R2 (2020)

* 県別の生産農業所得を販売農家数で除した数値

全国平均 327万円
(北海道除く) (287万円)

1位 北海道 1547万円
24位 (中央値) 神奈川県 251万円
47位 奈良県 131万円
46位 兵庫県 142万円

○水田県より畑作/果樹/畜産県が上位を占める傾向

参2

経営規模別経営体数の変化をみる (都府県)

	H17(2005)	H22(2010)	H27(2015)	R2(2020)
0-1ha	1,144,779	927,951	736,358	562,366
1-3ha	659,900	549,766	444,780	335,111
3-5ha	94,714	87,010	78,670	66,479
5-10ha	41,098	45,543	46,973	44,374
10-20ha	10,536	14,295	17,417	19,497
20-30ha	2,069	3,931	4,847	6,081
30-50ha	1,050	2,561	3,260	4,255
50-100ha	459	1,165	1,551	2,068
100ha-	159	313	437	561
計	1,954,764	1,632,535	1,334,293	1,040,792

参3

経営規模別経営体数の変化をみる (兵庫県)

	H17(2005)	H22(2010)	H27(2015)	R2(2020)
0-1ha	51,663	43,586	34,676	26,817
1-3ha	13,102	12,719	11,446	9,584
3-5ha	606	724	815	795
5-10ha	355	441	538	603
10-20ha	225	296	420	503
20-30ha	174	199	296	334
30-50ha	28	75	78	92
50-100ha	21	18	31	53
100ha-	2	3	13	19
100ha-	0	1	2	5
計	65,953	57,766	47,895	38,302

参4

経営規模別経営体数の変化をみる (佐賀県)

	H17(2005)	H22(2010)	H27(2015)	R2(2020)
0-1ha	14,663	11,129	9,246	7,484
1-3ha	14,307	6,515	5,527	4,588
3-5ha	2,342	997	964	927
5-10ha	688	528	575	640
10-20ha	103	620	682	691
20-30ha	93	189	233	297
30-50ha	6	149	169	165
50-100ha	2	172	181	141
100ha-	2	86	74	62
100ha-	0	24	25	26
計	32,103	19,789	16,994	14,330

参5

スマート農業の推進は国の優先政策

我が国の農業の強み

- ・ 気候や土壌などの地域特性に対応した匠の技
- ・ 全国各地の地域性を反映した、多種多様な美味しい品目、品種
- ・ 消費者ニーズに即した安全安心な農産物

先端技術



「農業技術」×「先端技術」



- ・ ロボットトラクタやスマホで操作する水田の水管理システムなど、先端技術による作業の自動化により規模拡大が可能に
- ・ 熟練農家の匠の技の農業技術を、ICT技術により、若手農家に技術継承することが可能に
- ・ センシングデータ等の活用・解析により、農作物の生育や病害を正確に予測し、高度な農業経営が可能に

参6

企業サイドの農業への進出の動き

イオアグリ創造(株)・福永社長の話

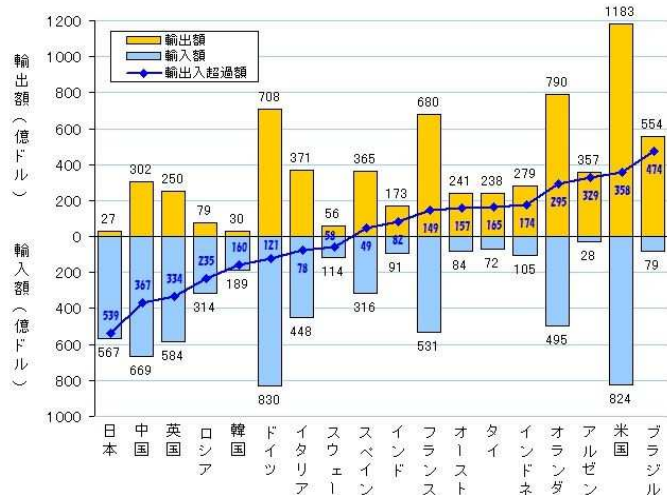
(大日本農会会誌「農業」1618号の記事を編集)

- 理念は「農業の発展とお客様の価値を創造する」
- 農産物のバリューチェーン改革を進め、競争力・差別化の原動力を創造するというビジョンを従業員と共有
- 地域農業との連携、地域行事への参加、地元技術の伝承、子供の農業体験など、地域貢献を目指す。
- 国際基準や品質確保を意識して輸出にも取り組む。
- 2009年に創立、2014年から新人の採用を始め、1万人の応募。2015年は4千人から20名を採用。
- 失敗の原因を追跡できる分析力を持った従業員の人材育成に努める。

参7

世界で2番目の農産物輸出国はどこか？

主要国の農産物貿易（2008年）



農産物輸出額

- 1位 アメリカ
- 2位 オランダ
- 3位 ドイツ
- ...
- 51位 日本

出典：連盟2012年度サマーセミナーでの大泉一貫先生の講演資料を再編集

参8

農産物輸出大国オランダの秘密

○農業を知識集約型産業に転換

出典：連盟2012年度サマーセミナー
大泉一貫先生の講演内容等から作成

- 大学・研究機関の頭脳を結集して知識イノベーションを実現（アグリビジネスを産官学でらせん状に発展）

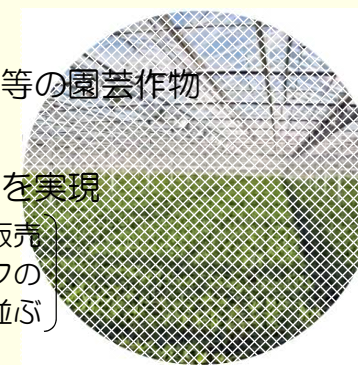
○ハウスによる装置型園芸農業

- 農業生産の39%が花・野菜等の園芸作物

○品質管理・鮮度保持の徹底

- 消費者までの切れ目ない輸送を実現

「花は、収穫翌日には、EU中で販売され、二日後にはニューヨークのタイムズ・スクエアの花屋に並び」



○知的所有権の保護

- 花の球根は自家増殖を禁じる契約を結んで輸出され、輸入国で栽培される

参9

イタリアはアグリツーリズムで農村を振興

○アグリツーリズムとは、農家に滞在し、都会での日常から離れて田舎の雰囲気、新鮮な地域素材を使っの「マンマ（母親）」の味を楽しむ旅。

2001年の公認数：10,662件

年間利用客：205万人（うち外国人25%）

○スローフード法令が制定され、次のような活動における3つの指針が示されている。

守る：消えてゆく恐れのある伝統的な食材や料理、質のよい食品、ワインを守る。

教える：子供たちを含め、消費者に味の教育を進める。

支える：質のよい素材を提供する小生産者を守る。

参10

私たちのアグリツーリズム体験



人々、食とワイン、動物、景観を満喫しました！

参11

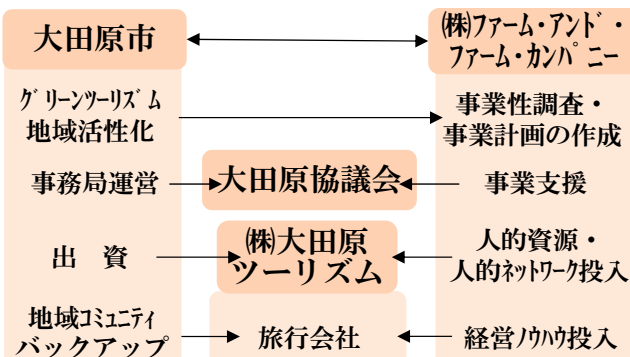
栃木県大田原市でのグリーンツーリズムの取り組み

グリーン・ツーリズムによる観光交流人口等（視察含む）

	交流人口	宿泊	農家民宿賛同農家数
H24年度	189人	0泊	0軒
H28年度	8351人	4678泊	140軒



官民連携 PPP (Public Private Partnership)



出典：H29 農業農村整備セミナー 藤井大介講師の資料から太田が作成

参12

我が国の海外市場の可能性は？

- 我が国の国内市場は将来的に縮小傾向。
- 日本食ブーム、アジアの富裕層・人口の増加。
- 我が国の魅力に触れた訪日客は潜在的な顧客。

日本・東・東南アジア市場とオランダ・EU市場の対比（英国EU離脱前）

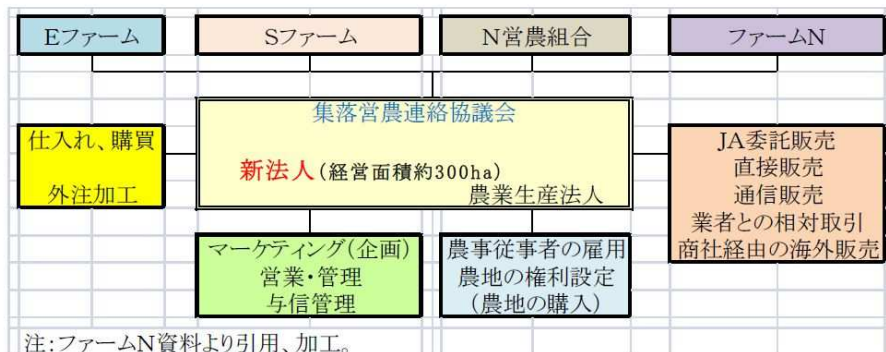
国・地域	人口	GDP	1人当たりGDP
東・東南アジア	21.87億人	18.2兆ドル	55-0.9千USD
日本	1.27億人	4.9兆ドル	38USD
韓国	0.50億人	1.2兆ドル	24USD
台湾	0.23億人	0.5兆ドル	20USD
中国	13.61億人	9.2兆ドル	8USD
アセアン	6.26億人	2.4兆ドル	55-0.9千USD
EU（英国含む）	5.05億人	17.4兆ドル	110-7千USD
オランダ	0.17億人	0.8兆ドル	47千USD

東・東南アジア市場には高い将来性が！

参13

集落営農組織の新たな展開（滋賀の事例）

集落営農組織の合併とそれによる経済効果の発揮



●それぞれ60～100ha規模にある4つの集落営農組織が合併し、規模の経済が発揮できる仕入れや販売、従業員の雇用は統合法人で実施していくことを計画。

〔農業・食品産業技術研究機構中央農業総合研究センター 企画管理部長 梅本 雅 博士 の講演資料から転載〕

参14

施設園芸における大規模化（兵庫の事例）

○加西市にある兵庫ネクストファーム

＊[次世代施設園芸導入加速支援事業]の一環として設立。

- ・オランダから導入した3.6haの大規模施設農業ハウスでトマトの周年栽培を実施。
- ・サラダボウル/JA兵庫みらい/JA兵庫みらい アグリサポート/(株)ハルディンの4社が出資。
- ・100人もの若手従業員が農業の新しい形に挑戦。



参15

集落の未来に向けた話し合いの流れ

○自らの農村地域（集落）の将来を語り合う。

○どのような農業を、誰に担ってもらうか？
「どうすれば儲かる農村地域となれるか？」
を話し合う。

○「どのようにして地域の皆が期待する農業を実現するか？」の手順を話し合う。

○「誰にどのような連携や支援を求めるか？」
を話し合い、情報発信する。

○できることから協力して実行に移していく。

集落で

担い手で

集落で

参16

